

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月12日
【四半期会計期間】	第118期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	昭和ボックス株式会社
【英訳名】	SHOWA PAXXS CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大西 亮
【本店の所在の場所】	東京都新宿区市谷本村町2番12号
【電話番号】	(03)3269-5111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 飯崎 充
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区市谷本村町2番12号
【電話番号】	(03)3269-5111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 飯崎 充
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第117期 第3四半期 連結累計期間	第118期 第3四半期 連結累計期間	第117期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	14,117,505	14,578,870	18,653,803
経常利益(千円)	630,488	828,572	839,927
四半期(当期)純利益(千円)	376,566	551,590	526,011
四半期包括利益又は包括利益(千円)	473,268	958,367	995,408
純資産額(千円)	9,555,041	10,924,819	10,075,460
総資産額(千円)	20,373,799	22,748,668	20,972,171
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	42.39	62.09	59.21
自己資本比率(%)	45.5	46.6	46.6

回次	第117期 第3四半期 連結会計期間	第118期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	12.92	20.16

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態及び経営成績の異常な変動等、または、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）における我が国経済は、GDPが7～9月期が4～6月期に続いて前期比プラスで、前期比プラスが4四半期連続となったように、景気の回復傾向が持続しました。外需はやや弱含みながら、公共投資や好調な個人消費が内需を底堅く支え、企業業績や雇用情勢の改善につながり、株式市場も好調に推移するなど景気復調の様相が顕在化してきております。

先行きについては、年度末にかけては消費増税前の駆け込み需要を中心に回復が続くと思われませんが、その後は駆け込み需要の反動による落ち込みやアジア新興国を中心とした景気の下振れなどを懸念する見方もあり、このまま来年度以降も景気の回復基調が継続するかについては不透明な状況となっております。

このような情勢のもと当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は14,578百万円で前年同期に比して461百万円の増収となりました。損益につきましては、営業利益709百万円（前年同期比164百万円の増益）、経常利益828百万円（同198百万円の増益）、四半期純利益551百万円（同175百万円の増益）となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

重包装袋

重包装袋部門の主力製品であるクラフト紙袋は、業界全体の当第3四半期連結累計期間出荷数量（ゴミ袋を除く）は、全体では前年同期比0.4%と僅かに下回りました。合成樹脂等の分野が若干増加しましたが、米麦、製粉、飼料、セメント等の用途は減少しました。なお、当第3四半期連結会計期間だけで見ると、当第1、第2四半期連結会計期間と異なり、出荷数量が前年同期を僅かながら上回りました。

当社の売上数量は前年同期比+0.7%であり、僅かに増加いたしました。合成樹脂、化学薬品用途では数量を増やしましたが、米麦、砂糖・甘味等の用途では減少しました。

子会社の九州紙工(株)の売上数量は生産性を向上させて前年同期比+8.0%となりました。タイ昭和パックス(株)の当第3四半期連結累計期間（1～9月）は、洪水の影響が残った前年同期と比べて+8.3%と増加しました。山陰製袋工業(株)の当第3四半期連結累計期間（1～9月）は前年同期比で+1.0%とほぼ横ばいでした。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間売上高は9,316百万円で、前年同期に対し4.6%の増収となりました。

フィルム製品

フィルム製品の業界全体の当第3四半期連結累計期間の出荷量は、産業用は若干の増加、農業用は減少で、全体ではほぼ横ばいでした。その中で主原材料であるポリエチレン樹脂価格が数度にわたって値上がりし、製品価格への転嫁は遅れ気味となるため、フィルム加工業の採算は厳しくなりました。

当社の売上数量は、当第2四半期連結会計期間までは前年比マイナスでしたが、当第3四半期連結会計期間になって盛り返し、累計では産業用が減少、農業用はほぼ横ばいでした。

当セグメントの当第3四半期連結売上高は2,915百万円で、前年同期に対して2.2%の減収となりました。

コンテナ

粒状内容物の大型輸送用ワンウェイ・フレコンは、当第3四半期連結累計期間を通じて海外からの輸入数量が除染用途などで伸びており、全体の流通量は前年同期比で増加しております。

当社のワンウェイ・フレコン「エルコン」の売上数量は自社製品は減少しましたが、輸入販売品が増加し、全体では前年同期比+5.1%でした。大型コンテナバッグ「バルコン」は絶対量は少ないながら、タイ昭和ボックス(株)製造品の国内販売を増やし、数量は前年同期比で+33.9%になりました。また、液体輸送用の1000内袋「エスキューブ」、20ftコンテナ内袋「エスタンク」は固定顧客が付き安定的な売上を期待できるようになりました。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間売上高は1,233百万円で、前年同期に対して8.2%の増収となりました。

不動産賃貸

賃貸用不動産及び賃貸契約内容に大きな変動はありません。当セグメントの当第3四半期連結累計期間売上高は前年同期から4.5%増の194百万円でした。

(2) 財政状態

(資産)

当社グループの当第3四半期連結会計期間末総資産は22,748百万円で、前連結会計年度末に比べて1,776百万円増加しました。主な増加要因は現金及び預金521百万円、売掛金及び受取手形170百万円、有形固定資産638百万円および投資有価証券438百万円です。

(負債)

負債合計は11,823百万円で、前連結会計年度末に比べて927百万円増加しました。主な増加要因は支払手形及び買掛金421百万円、その他の流動負債415百万円および繰延税金負債140百万円です。主な減少要因は賞与引当金116百万円です。

(純資産)

純資産合計は10,924百万円で、前連結会計年度末に比べて849百万円増加しました。これは主に四半期純利益551百万円と配当支払106百万円の結果である利益剰余金の増加444百万円およびその他有価証券評価差額金284百万円等によります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、178百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,900,000
計	26,900,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,900,000	8,900,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	8,900,000	8,900,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	8,900	-	640,500	-	289,846

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 16,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,860,000	8,860	-
単元未満株式	普通株式 24,000	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	8,900,000	-	-
総株主の議決権	-	8,860	-

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
昭和パックス株式会社	東京都新宿区市谷本村町2-12	16,000	-	16,000	0.18
計	-	16,000	-	16,000	0.18

(注) 上記のほか、当社所有の単元未満自己株式620株があります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,131,954	4,653,889
受取手形及び売掛金	⁴ 5,961,333	⁴ 6,131,558
商品及び製品	1,348,284	1,296,090
仕掛品	87,760	129,227
原材料及び貯蔵品	1,049,061	1,022,669
繰延税金資産	166,065	168,810
その他	298,503	250,633
貸倒引当金	13,410	13,631
流動資産合計	13,029,554	13,639,246
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,614,376	7,042,535
減価償却累計額	4,527,220	4,697,903
建物及び構築物(純額)	2,087,155	2,344,631
機械装置及び運搬具	8,045,066	8,806,321
減価償却累計額	6,846,949	7,045,506
機械装置及び運搬具(純額)	1,198,117	1,760,814
土地	855,667	869,787
リース資産	39,592	39,592
減価償却累計額	12,813	16,676
リース資産(純額)	26,779	22,916
建設仮勘定	305,811	73,983
その他	624,659	686,807
減価償却累計額	566,933	588,828
その他(純額)	57,726	97,979
有形固定資産合計	4,531,258	5,170,113
無形固定資産		
リース資産	1,361	486
ソフトウェア	47,947	43,188
電話加入権	9,230	9,230
無形固定資産合計	58,539	52,904
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 2,900,990	¹ 3,339,113
繰延税金資産	11,358	11,699
その他	500,745	591,709
貸倒引当金	60,274	56,117
投資その他の資産合計	3,352,819	3,886,403
固定資産合計	7,942,617	9,109,422
資産合計	20,972,171	22,748,668

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	⁴ 4,537,550	⁴ 4,959,285
短期借入金	3,076,960	3,131,580
未払法人税等	137,998	155,389
賞与引当金	298,967	182,906
役員賞与引当金	21,916	17,640
リース債務	7,497	6,436
繰延税金負債	3,506	4,021
設備関係支払手形	⁴ 13,805	⁴ 20,932
その他	863,454	1,279,069
流動負債合計	8,961,657	9,757,261
固定負債		
長期借入金	631,000	626,500
退職給付引当金	200,420	220,294
役員退職慰労引当金	117,713	138,798
環境対策引当金	14,005	14,005
資産除去債務	6,963	6,987
負ののれん	113,992	71,245
リース債務	20,499	15,937
繰延税金負債	643,946	784,309
長期預り保証金	186,512	188,510
固定負債合計	1,935,054	2,066,588
負債合計	10,896,711	11,823,849
純資産の部		
株主資本		
資本金	640,500	640,500
資本剰余金	289,846	289,846
利益剰余金	8,196,888	8,641,873
自己株式	7,502	7,685
株主資本合計	9,119,733	9,564,535
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	686,009	970,311
為替換算調整勘定	37,605	57,885
その他の包括利益累計額合計	648,404	1,028,196
少数株主持分	307,323	332,087
純資産合計	10,075,460	10,924,819
負債純資産合計	20,972,171	22,748,668

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	14,117,505	14,578,870
売上原価	11,772,634	12,040,000
売上総利益	2,344,871	2,538,869
販売費及び一般管理費	1,799,550	1,829,074
営業利益	545,320	709,795
営業外収益		
受取利息	2,433	2,763
受取配当金	71,163	73,649
負ののれん償却額	42,747	42,747
為替差益	1,353	26,616
その他	14,843	17,919
営業外収益合計	132,541	163,696
営業外費用		
支払利息	44,292	43,555
その他	3,080	1,362
営業外費用合計	47,372	44,918
経常利益	630,488	828,572
特別利益		
投資有価証券売却益	73	200
特別利益合計	73	200
特別損失		
固定資産除却損	2,117	172
投資有価証券評価損	42,125	334
特別損失合計	44,243	507
税金等調整前四半期純利益	586,319	828,265
法人税、住民税及び事業税	204,743	263,703
法人税等調整額	1,592	3,004
法人税等合計	206,335	260,698
少数株主損益調整前四半期純利益	379,983	567,567
少数株主利益	3,416	15,976
四半期純利益	376,566	551,590

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	379,983	567,567
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68,083	284,699
為替換算調整勘定	25,201	106,100
その他の包括利益合計	93,284	390,799
四半期包括利益	473,268	958,367
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	467,283	931,382
少数株主に係る四半期包括利益	5,985	26,984

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
投資有価証券(株式)	30,000千円	30,000千円

2. 偶発債務

下記のとおり、従業員(3名)の持家融資に伴う銀行借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
債務保証金額	15,763千円	14,232千円

3. 受取手形割引高および裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形割引高	16,279千円	34,095千円
受取手形裏書譲渡高	2,515	4,518

4. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理は、手形交換日をもって、決済処理しております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	173,792千円	123,087千円
支払手形	45,006	56,868
設備関係支払手形	6,455	3,788

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)および負ののれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	408,307千円	419,815千円
負ののれん償却額	42,747	42,747

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	53,308	6	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年11月22日 取締役会	普通株式	53,302	6	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	53,302	6	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月21日 取締役会	普通株式	53,302	6	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	重包装袋	フィルム 製品	コンテナ	不動産賃貸	計		
売上高							
外部顧客への売上高	8,903,738	2,981,037	1,140,175	185,686	13,210,637	906,867	14,117,505
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	8,903,738	2,981,037	1,140,175	185,686	13,210,637	906,867	14,117,505
セグメント利益	531,464	126,901	3,715	99,701	761,783	66,609	828,392

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、包装用原材料、包装用機械、その他関連製品等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	761,783
「その他」の区分の利益	66,609
全社費用(注)	283,072
四半期連結損益計算書の営業利益	545,320

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	重包装袋	フィルム 製品	コンテナ	不動産賃貸	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,316,206	2,915,781	1,233,732	194,019	13,659,740	919,130	14,578,870
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	9,316,206	2,915,781	1,233,732	194,019	13,659,740	919,130	14,578,870
セグメント利益又は損失()	704,571	122,317	8,026	112,131	930,994	72,755	1,003,749

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、包装用原材料、包装用機械、その他関連製品等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	930,994
「その他」の区分の利益	72,755
全社費用(注)	293,954
四半期連結損益計算書の営業利益	709,795

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	42円39銭	62円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	376,566	551,590
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	376,566	551,590
普通株式の期中平均株式数(株)	8,884,035	8,883,648

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

平成25年11月21日開催の取締役会において、平成25年9月30日を基準日として、剰余金の配当を行うことを次のとおり決議いたしました。

配当の金額 53,302千円

1株当たり配当額 1株当たり6円

効力発生日 平成25年12月5日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月12日

昭和パックス株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 青木 俊人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹野 俊成 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている昭和パックス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、昭和パックス株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。